10/11
訪米阻止斗争ニュース
No.
全学自治会中央執行委員会
10/11

10月の大阪府民集会へ

山崎君追悼 佐藤内閣糾弾

侵略者佐藤包囲の大闘争へ!

山崎君は、虐殺されたのだ。大しろあり殺虫剤ではない。ケーシに2トンをある装甲車にひかれば、死因は頭部損傷などではなく、圧しつぶされたにちがいない。それに、TBSテレビニュースの目撃者は、学生の運動するデモ隊とは反対側の歩道から人によりかかっている学生を機動隊が、コン棒でメッタ打ちにしているところを証言する。山崎君はここで死んだのだ。十三に、死体解剖した慶応病院医学教室とは、被反動の集まりであり、権力筋の意向を最初に解剖し、偽りの結果を発表したところであり、しかも、公安関係者以外は立ち入らせないで解剖したのは何を意味するのか。

山崎君の死因は明らかであろう。我朝医の虐殺であり、マスコミの偽瞞的宣伝は、非難に値いし、殺人行為で学生と連帯することは、フレームアップ以外の何ものでもない。山崎君の生命を奪い、多数の負傷者をつくりだし、警察権を打ちこみ、大量検挙を行ったことの意味は何か。学生運動の急進化をくいとめることによって、佐藤の訪ベトの一切の矛盾を覆い、侵略外交の本質をおしかくし、それに対するマスコミ、政府、警察権力一体となった長期的体系的弾圧体制に事態の本質があるのだ。最大の被告者は、佐藤首相にある。

佐藤の訪ベトの政治的意味を見失ってはならない。それこそが斗争の意味そのものであり、山崎君の斗いの正当性である。そのことは、我々の斗いの正当性をも

我々の今回の任務、それは、一我々の組織にかけて、侵略者佐藤を包囲することである。我々の組織とは、広い意味でのスクラムを基底体制とはかかわらず、どこである。羽田現地すでにおける我々の組織の強さ、即ち、社共両党が羽田斗争と本格的に展開せず、学生諸君にがいしても、全国斗争と現地斗争以外我々の組織に統合しえなかったことを総括し、10・13、10・21のたたかいを全国斗争として展開することである。その為の運動と発展させることである。羽田現地における我々の自治会スクラムを強化することにより、その為の運動を展開する部隊として全国学生戦線に公然化させた。そして、全国反戦青年委との共同した抗議行動を成功させ、学生部隊との固い結合をかちとる。我々は、今後の運動において、この自治会民斗の成功を更に発展させねばならない。

市大自治会における我々の運動は、明日の大阪府民集会への大衆的参加を通じ、佐藤のベト阪止の斗いを更に深め、10・21斗争と全国学生の圧倒的成功をかちとらねばならない。

全学自治会中央執行委員会
(大阪市立大学)